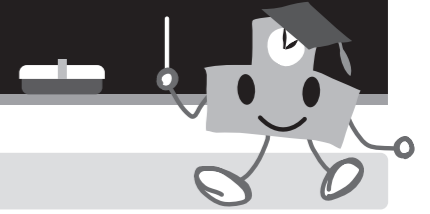


小学校の事例 豊平区 豊園小学校

春と秋、地域の公園を清掃。 子供たちの自主性と責任感を育む。

公共施設の清掃を自然環境への配慮を考える第一歩に。高学年、低学年の垣根を越えて、活動することで、責任感も生まれる。これからは日常的な取組へ発展させていく。



はじまり 地域との交流の場となる清掃活動

本校では、学校の近くにある豊園公園、美園公園、まくらぎ公園を清掃する活動を、春・秋2回行っている。これには町内会の方も参加するため、子供たちと地域

の方が交流するよい機会になっている。子供たちが普段出会うチャンスの少ない、「地域の大人」と交流しながら、活動が深まっている。

内容 たて割りグループでの活動で責任感が

「より活動に広がり生まれるのではないか」という教員の提案をきっかけに、以前から行っていた清掃活動を、今年からは各学年の児童が参加するたて割りグループでの活動に変更した。これにより、高学年にはリーダー性や自主性が生まれ、低学年は上級生を手本にして意欲が向上し、さらに自分たちだけで行うには難しい作業にも取り組むことができるようになった。特に、高学年ではとても前向きな意識の変化があり「学年の中の誰か」に「任せる」活動ではなく、「たて割りグループの中にいる自分」を意識して「わたしたちに任せて!」という言葉が多くみられるようになった。

このように清掃活動での低学年との関わりをとおして、自主的な行動とともに責任感が育まれている。



活動についての説明の様子

今後 行事から 日常的な活動に

地域での清掃活動は、街をきれいにする意識を育て、そこから自然環境などへの配慮を育む第一歩となる。行事としてだけではなく、日常的に実践できるようにするため、今後の様々なアプローチが検討されている。



公園での清掃活動

広げよう つなげよう 環境学習の輪

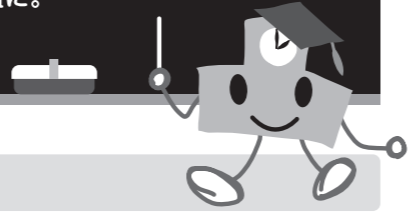
実施校から メッセージ

たて割りグループは、たとえば1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアになったり、全学年の児童を組み合わせたりして、構成されるものです。学年の枠を超えて交流することで、子供たち同士の絆を深めたり、全校の連帯感を高めたりなど、子供たちの自主性を伸ばすことを目的としています。年齢が異なる子ども同士がかかわることで、高学年は責任感を、低学年は向上心が高まる効果もあります。

小学校の事例 白石区 北都小学校

地域の中の川や公園から 環境について考える。

川や公園の清掃活動をとおして、地域や自然を守っていかうとする心が芽生える取組に。



内容 現状を知り よりよい環境をめざして

本校に通う児童にとって、校区のそばを流れる月寒川は、とても身近な自然環境であり、自分たちの住む町の環境を考えるよい題材になっている。「身近な自然を守ろう!」という思いから4年生が清掃活動を行い、公園や道路・校地内清掃へ発展させている。

などと話し合い、それを踏まえて2回目は実際に清掃を行った。



清掃活動

平成20年度は10月に北都公園のごみ拾いと落書き消しを行った。川には2回行き、1回目は「ごみが捨てられているね、川底にもあるよ」などと状態を観察した。その後、観察したことをまとめ、「なぜごみが落ちているのか?」「どうしたらきれいになるだろう?」

課題 清掃活動をとおして環境を考える活動へ

本校での川や公園での清掃活動は、「きれいにすること」を目的としたものではなく、子供たちが学んでいることと関連付くものを教材化して、現地学習に取り入れ、このほかにも、子供たちがニュースから関心をもったことについて、可能な範囲での現地学習を行っており、これは年によって内容を変えて継続している。

に取組める結果となった。自分たちの街をきれいにする行動や、川の観察などから、地域の川、豊かな自然を守っていかうとする心が育まれる。今後は、活動を単なる行事として終わらせず、日常の行動に結びつけていくため努力を続けていきたいと考えている。



きれいな川に...

道路や川のごみ拾いは、拾っても次々にごみが出てくるため、継続して活動するための工夫が必要となった。本校では清掃をグループごとに範囲を決めて行い、互いにきれいになった結果が目に見えてわかるように工夫。これが子供たちの達成感につながり、やりがいをもって活動

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

清掃活動をする前に、子供たちは先生から「ほうき」の使い方を教えてもらいます。日常生活の中で「ほうき」を使う経験がない子供たちが多いため、持ち方からホコリを立てずに掃く方法をきちんと学んでいます。知ってほしいことを関連付けて取り入れるのもよいですね。